



金沢駅 みどりの窓口

常時5窓に!

JR西日本は、2023年3月期第2四半期決算を発表しました。2023年3月期第1四半期に続き連結ベースで645億円の黒字で、営業損益は、2019年度以来3期ぶりの黒字でとなっています。運輸収入は、コロナ第7波で一時的に低下しましたが、対前年で152.7%と増加、対コロナ前の2019年比較では70.8%まで回復し、非鉄道事業も回復傾向となっています。また、10月以降は入国制限の緩和や全国旅行支援等の影響で、大幅に利用者も増えています。

金沢駅でも、みどりの窓口、みどりの券売機、の利用者が大幅に増えてきました。新型コロナの影響により、非対面化が進み、ネットでの予約や旅行会社の予約の受け取り、新規の発券は、みどり券売機でもスムーズになってきています。しかし、学割やジパング割引、年度跨りの学生定期などは、みどりの券売機プラス(遠隔MV)のオペレーター対応となり、混雑する時は、40人~30人待ちの状態、一人で20分~30分、発券するまでかかります。また、乗車変更でも制約があり、当日分の同一区間で、それ以外の変更はオペレーター対応となります。障害者手帳の利用者や、払い戻しもオペレーターの対応となります。

また、北陸本線や七尾線など無人駅を大幅に増やしたことにより、無人駅から乗車の方は、とりあえず金沢駅まで乗車し、金沢駅から目的地の駅まで買うこととなります。金沢駅に来て、みどりの券売機がわからなければ、みどりの窓口に並びます。

いろいろな要因は考えられますが、金沢駅の利用者は確実に増加しています。以前は、みどりの窓口も7窓あった時もあります。コロナ禍で利用者も大幅に減りましたが、今は、ウイズコロナを見据えて、観光の重要が増加しています。窓口の混雑解消のためにも、国労は、金沢駅のみどりの窓口を、常時5窓開くよう強く求めています。

期末手当満額獲得で

全社員の生活改善を!